

バイト (咬合記録) 材について

シリコン系バイト材の使用のご提案



重要

噛みが甘いと、正しい高さで作製出来ない為、患者さんにはギョツとしっかり咬んでいただいて、バイト材が全体的に均一に咬み抜いている事を必ず確認する

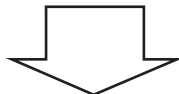
シリコンバイト選択の基準 (ショア A 硬度について)

シリコンバイトの硬化後の硬度は高いほうがより安定性をもつのですが、マウント時には支台歯上のみ小さくトリミングして使用する為、硬度とともに、ナイフにてカットし易いものを選択。

例えば、GCのエグザバイトIIであれば、ショアA硬度が87、エグザバイトIIIであればショアAが94、と、野球の硬球から、ゴルフボールくらいの硬さということになります。個人的には **ショアA硬度90あたり** のバイト材がカットしやすいと感じています。

模型上の咬頭嵌合位 \neq 生体の咬頭嵌合位

そのまま上下模型を合わせてマウントしてしまうと、100%咬合調整が発生する



バイト材(咬合記録材)に着目する

※ 詳細は HP 内、研究発表 7 生体と歯列模型の誤差を考察するをご参照ください

シリコンバイトをとる位置は状況によって、
全顎が困難な場合は、支台歯周囲だけでも可

ショア A 硬度 90 あたりのシリコンバイト材で
硬化時間等、院内で使用しやすいもの

ショアA95	ゴルフボール
ショアA90	野球の硬球
ショアA70	軟球
ショアA50	プラスチック消しゴム
ショアA30	自転車のタイヤチューブ



例 GC エグザバイトII → ショアA 87
エグザバイトIII → ショアA 94

FEED FPバイト2 → ショアA 91

1

札幌医届出(医)第147号

OKUMURASHIKEN

有限会社 奥村 歯研

〒063-0827 札幌市西区発寒7条5丁目11-21
クレストコート2-B

TEL(011)688-8149 FAX(011)688-8047

E-mail okumurashiken@gmail.com Mobile phone 090-2055-5649

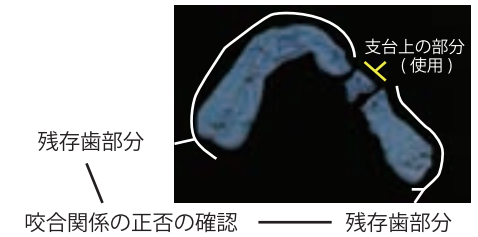
実際の使用例

残存歯部分

誤差を含んでいる為、マウント時には直接は使用しないが、すべての歯で均等に咬みぬいているか、その場所を確認することでこのバイトが正しいかどうかの判断に役立つ。

支台歯上の部分

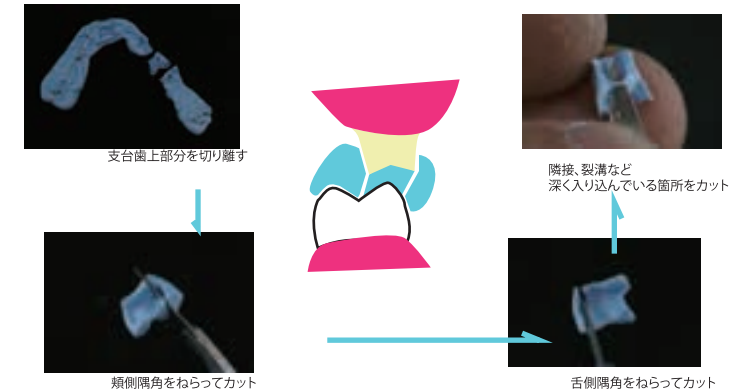
マウント時において高さ、位置を決める不可欠な部分。



バイト材のトリミング

支台歯上だけ切り離して頬側、舌側ともに隅角ぎりぎりを狙って、対合歯の圧痕がなくなる位置でカット、さらに、隣接や溝など深く入り込んでいる部分もカット。

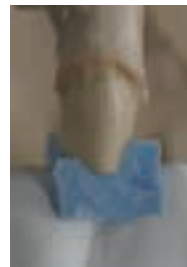
特に舌側部分は余計な干渉が残っていると高さに最も影響を及ぼすので注意。



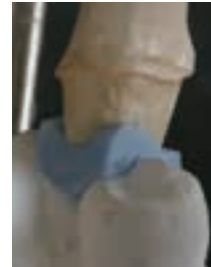
支台、前後3歯ずつ分くらいをはずして、
バイト材のみはさんでマウント



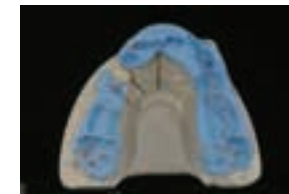
ホットボンドにて固定



頬側



舌側



バイトの咬み抜いている箇所を赤マーク



咬合器上のバイトの状態を咬合紙でチェック



咬合器にマウント後、支台歯前後の歯列を模型に戻し、早期接触の誤差を調整することで、
口腔内での正しい高さを模型上に再現する